

The Reminiscence of Exellia NG+1

「龍姫（どうけ）と聖王（くろこ）」

作成レギュレーション

基本概要（新規／継続）

- ・ 経験点：133500 / 145000 点
- ・ 資金：258000 / 282000G
- ・ 名誉点：1500 / 1800 点
- ・ 成長回数：275 回
- ・ レベル制限：13
- ・ アイテムレベル制限：武器ランク S 以上 / 防具ランク A 以上
- ・ 推奨：防具ランク S 以上
- ・ ステータスリミット：各項目ボーナス 14（+増強増分 2）まで

制限事項

- ・ ヴァグランツ / 蛮族 PC 禁止
- ・ SW2.0 / 2.5 標準流派入門・使用禁止
- ・ 武器防具強化に関する特殊制限
- ・ シナリオ成長回数 10 以上のとき、6 割以上の偏重割り振りの禁止
- ・ 戦利品判定は振ってくれ（懇願）

その他注意事項

- ・ 制限を逸脱した成長を行った PC は、レベルシンクが行われます。レベルの上限を突破した成長を行った場合、レベルが下限に合わせられます。
ステータスリミットの制約を無視した成長を行っていた場合、成長の振り直しが行われます。このとき、キャラクターシートのデータは振り直し後のものになります。
- ・ 成長回数の制約を逸脱した成長を行っていたキャラクターシートが見られた場合、このキャンペーンは強制的に終了します。

導入 ～唐突な宣戦～

——数日後。

君達の元へ、一通の手紙が届く。

手紙の内容は、単純に、ざっくりと語るのであれば、宣戦布告。

「3日以内に政治体制を戻さないならば、闇喰竜の力を以て龍刻を滅亡させる」。
そのように言うのは、確実に…最果ての聖王への復讐心に駆られた龍姫公だった。

(※GMメモ：RP待機)

一方、エクセリア——

ナリューファ市場街の市場にて、彼女は忌むべき敵をその目に焼き付けていた。

エクセリア

「なぜ堂々とここにいる、龍姫公」

龍姫公

「へえ、子供は連れてきていないんだ」

対峙する『朱』と『緋』。

彼女らを見た住民達は、誰に指図されたわけでもなく、そこから遠ざかる。

龍姫公

「私からの要求はただひとつ。政権を明け渡し、政治体制を元に戻せ」

エクセリア

「できない相談だな。お前のような、『人の物語を侮辱する存在』とは…」

一瞬にして、交渉が決裂する。

数秒の沈黙を破り、龍姫公が仕掛ける。エクセリアは、腰に提げた得物を抜くことはなかった。——代わりに、岩石の腕で、龍姫公の大剣を受け止める。

龍姫公

「どうした、お前の力はそんなものじゃないだろう！」

エクセリア

「…そういうお前こそ、その人間性に在る姑息さはどこへ行った？」

静かな煽りに、龍姫公は怒りから大剣を振るってエクセリアを吹き飛ばす。

召喚獣の力を解放し、闇の瘴気を纏う龍姫公。

龍姫公

「お前に絶望を与えてやろう…」

闇の瘴気が、ナリューファ市場街を覆う。エクセリアは、それを無言で、ただ突っ立った状態で見据える。——龍姫公の左手に、驚掴みされたセリーヌの姿があった。

セリーヌ

「おかあ…さん…！」

娘の助けに、エクセリアは応じない。なぜなら、エクセリアの眼に映るセリーヌの姿をしたものは、ただの闇の瘴気の塊だからだ。いくらエーテルと言えど、存在定義を騙すことはできない。物の斯く在るべしを定める意志力は、エクセリアの眼を介してセリーヌではないと告げている。

エクセリア

（この場には、かつて彼女を看取ったときの残り香が燻っている。この場を戦場にせず、街として発展させることが、彼女の最後の願いだった。だが、今このときに、ただの復讐心から街を闇で穢そうとする悪鬼が目の前に在る。この場で私は…死ぬわけにはいかないんだ、決して…！）

そう言って、エクセリアは左手に魔力を流し込む。

普段は、うんともすんとも言わず、魔力も通ることはない左手。石化が治っても尚、その事実揺らぎは発生していなかった。

火防女

『私は最期に、あなたにちょっとした祈りを込めます。その劫火の左腕は、真に守るべきものがあるときに使ってください。それが、今ここで消える私が、未来に向かう——』

エクセリア

「…私に対する願いとなる」

(※GMメモ：BGM「神の怒り (Re-arranged: type one)」)

そう言った途端、左腕から業炎が湧き上がる。民は唐突に湧き上がった災禍の炎を見て愕然とし、逃げるように街の外へと飛び出していく。

エクセリア

「我が五体に封じられし、古の時代の残り火よ。理に触れる名もなき無窮の剣をその礎とし我が下に集積せよ。汝、神を魅惑し終わりのなき罪に縛り付けし大罪の業炎よ、我はその罪を手繰り祓う者、抑止の枷を打ち破りて顕現せよ！」

業炎が剣の形を成し、エクセリアの前に顕現する。
そこへ、君達が駆けつける。

(※GMメモ：RP待機)

龍姫公

「だが、私が半顕現したことで…お前は如何なる召喚獣の力を使うことはできない」

そう言って、龍姫公はその魔力を進らせ、エクセリアを撃ち殺そうとする。

エクセリア

「熾炎を穿つものが、召喚獣の力だと思っているのか…。そうか…」

そう言って、エクセリアは闇の一部に向かって剣を振るう。闇は炎によって焼かれ、その光を取り戻す。龍姫公は単なる偶然だと思い、闇を更に奔らせる。

しかしどうしてだろう、炎は闇を喰らっているようだ。

龍姫公

「どういうことだ！？召喚獣の力はすべて封じたはず…！」

エクセリア

「召喚獣ではない、神だ！」

(※GMメモ：RP待機)

エクセリアが振るった炎は、人や物を焼くことなく、ただ怨敵の闇のみを焼き払った。闇を祓ったその炎は、凡そこの世界に在るべきものではない熱を帯びていた。

(※GMメモ：RP待機)

龍姫公

「なんだ、その炎は…！一体、どの鏡像世界の炎だと言うんだ…！」

エクセリアはその問いに、そして君達の疑問に答えようとしなかった。

エクセリア

「埒があかないな。お前からは常に闇が溢れ、私はこの炎で闇を祓う。この終わりのない事象に、この場で決着をつけることはできない」

よく見ると、左腕がすこしずつ燃え尽きようとしていた。エクセリア自身に、途方もない負担を強いるものなのかもしれない。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「だから、決着は光の戦士に託す。私にできるのは、お前を抑止することだけだ」

そう言って、その大剣を消失させ、広がる炎をその身に戻す。

その力に対する驚怖からか、龍姫公はそれ以上に闇を広げることなく。

龍姫公

「闇の底にて、お前達を待つ」

と言いついては撤退していった。

(※GMメモ：RP待機)

君達は、一度撤退する必要がある。これからの闘いに、備えなければならない。

闇の底へ

帰還後、エクセリアは君達に竜鱗を模した魔具を渡す。

エクセリア

「強すぎる闇が相手では、《光の加護》と言えど体内エーテルが歪みかねない。

それを…《護魂の靈鱗》を持っていくんだ。なに、効果は保証する」

(※GMメモ：RP待機)

促されるがままに、君達は護魂の靈鱗を入手する。

効能を知りたい場合は、宝物鑑定判定を行わなければならない。

宝物鑑定（セージ知識）判定 目標値：25

成功時、アイテムデータ開示

(※GMメモ：RP待機)

君達は、何がともあれ…、民を守るためにも、龍姫公を討つために闇の底へと向かわなければならなくなった。

<hr>

君達に加え、エメリーヌとエクセリアが、昏い闇の底へと向かっていく。

あまりにも膨大な闇である影響で、蛮族でさえ近づいていなかった。

(※GMメモ：BGM「樹海に沈む夢 ～遺産踏査 天深きセノーテ～」)

闇の底で、その王は眠っていた。多くのエーテルを吸い込んだのか、あるいはこの場に漂う魂たちを吸収したのか。彼女は、より黒い霧を纏っていた。

エメリーヌ

「人が人の姿を保ったまま保有できるエーテルの量には、どうしたって限界がある。

龍姫公は大量の闇を体内に取り込んだことで、それをとっくに超えてしまった…。

どう見ても、無事ではないわ」

君達の存在を感知し、歩いてくる龍姫公の足取りは覚束なかった。

呼吸も正常ではなく、明らかにおかしいことは、君達の間でも分かることだった。

エメリーヌ

「けれど、それと引き換えに、死将軍級のアンデッドをゆうに超えるほどの力を蓄えている…」

(※GMメモ：RP待機)

エクセリアの左腕に火が灯る。そして、眼前に彼女を捉え、叫ぶ。

エクセリア

「エーディン卿…ここで決着をつけるぞ！」

(※GMメモ：RP待機)

覚束ない足取りで、龍姫公が近寄る。

龍姫公

「…ああ、不愉快だ…。貴様ら、面倒な力を…持っているようだな…。お前の弟子…闇喰竜のドミナント…龍姫の公…。その玉座はなく、代わりにあるのは不名誉のみ…」

(※GMメモ：RP待機)

その言葉を聞き、エクセリアは一度目を閉じる。

そして、己の中でそれを証明するために、言葉を奔らせる。

エクセリア

「私はエクセリア・ゼーゲブレヒト・アウェア、最果ての聖王。お前はエクセリア・エーディン、龍刻連邦の龍姫公。

…最後の勝負だ、お互いの背負ったものを懸けて…！」

(※GMメモ：RP待機)

その言葉を聞き、龍姫公は豹変する。

(※GMメモ：BGM「Darkeater Midir Phase 1」)

龍姫公

「いいだろう。ならば、私もこの一戦に全てを懸けよう。

全ての闇を我が力の糧とし、お前達を喰らい尽くす。そして政治改革を成したお前を倒し、証明してやる。龍刻において王たり得るのは私であると…！」

コンテンツ解放：龍姫公討滅戦

敵：“龍姫公”エクセリア・エーディン

第1形態・HP20%以下

龍姫公

「ここまで力を持ったとしても、お前達を打ち倒せないと…！ならば…！」

そう言って、龍姫公は闇喰竜へと変じる。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「……………」

その威容を見たエクセリアは、神秘を秘めた言の葉を紡ぎ始める。

エクセリア（※斜体は篝火世界標準語）

「我が愛する火を守りし乙女の祈りにて、我この左腕に禁を宿す。

我が意志は、真に守るべき民草の命を繋ぐためにあり。賢神に誓い、我古の残り火の封を解く」

「古の力秘めたる息よ、不浄なる深淵をその神火にて祓え…！」

そう言うと、エクセリアの左腕から業炎が迸る。

(※GMメモ：龍姫公に「威力 100+75/C 値 8・必殺効果+3・初回確定クリティカル」点の確定ダメージ。各種ダメージ軽減・無効化効果を貫通する)

業炎が、闇喰竜の頭上に炸裂する。

龍姫公

『召喚獣に顕現できないからこそ、火の時代の残り火に賭けたか。だが甘いな…』

しかし、闇喰竜のどこにも、焦げ目がついていなかった。

(※GMメモ：RP待機)

龍姫公

『貴様は…ここで死ね…！』

そう言って、闇喰竜はエクセリアに食らいつき、火を吹く。

(※GMメモ：RP待機)

冒険者+筋力判定（エクセリア基準値） 目標値：62／要求成功数：3

エクセリア

「そう簡単に…やられるか…！」

そう言って、エクセリアは燃え盛る左腕を闇喰竜の右目にぶち当てる。

業炎が右目を焼き尽くし、エクセリアが闇喰竜の口から転がり落ちる。

(※GMメモ：RP待機)

龍姫公がテイクダウンし、次の龍姫公の手番開始時まで、受けるダメージが1.2倍になります。

また、第2形態に移行し、HPとMPが全回復し、すべての状態異常が解除されます。

第2形態・HP40%以下

龍姫公

『まさか、ここまで押されるとは…！』

(※GMメモ：RP待機)

闇喰竜が吼え、闇の波動を強く放つ。

(※GMメモ：BGM「Darkeater Midir Phase 2」)

龍姫公

『滅びるのは貴様らだ…！』

討伐後

顕現が解かれ、崩れ落ちる龍姫公。

エクセリアはそれを見て、ゆっくりと前に進む。

龍姫公

「私の負け…か…」

エクセリア

「そうだ。そして、私達の勝利だ」

(※GMメモ：RP待機
BGM「恐怖の波動」)

未だ、エクセリアの左腕は封じられた状態になっていない。

その証拠に、エクセリアをも蝕む炎が、未だ滾るように溢れている。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「これ以上、お前に悪行をさせるわけにはいかない。だから——」

龍姫公

「ここで私の力を喰らうと？やれるのか、お前は？」

(※GMメモ：RP待機)

唐突に、地面から黒い魔力が湧き始める。

高笑いする龍姫公を、エクセリアは目を細めて分析する。

エクセリア

「…そうか。そういうことか。ならば…！」

そう言って、エクセリアは輝きを湛えたクリスタルを取り出す。

エクセリア

「王たちの力故に、ハイデリンでさえ、私を分かťことはできなかった。

だが今なら…ハイデリンの力を『使いこなす』ことができる」

(※GMメモ：BGM「Your Answer (Orchestral) ～ハイデリン討滅戦～」)

地獄の如き熱量を帯びていた炎が、突然光を湛え始める。

エクセリア

「我が五体に封じられし、古き神の時代の残影よ。鳴り交わす魂の響きに依りてその無窮を剣に収め、我が呼びかけに応えよ。

その始原に秘められし魂の力よ、その響きに振るう刃を広げ、青の深淵より剣となりて姿を示し、我が敵を滅ぼせ！」

(※GMメモ：RP待機)

顕現した炎は、やがて収束し、ひとつの形を成す。

セレネ

「漸くお出ましか。いいだろう、私はあなたの影となり、あなたの代わりに涙を流し…そして、命の果てに笑いましょう」

——現れたセレネが“顕現”する。

エクセリア

「集いし絆の煌めきが、我が灯を元に暗夜を切り裂き夜明けを導く！」

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「概念の設計図に奔りて我が下に現れる、コズミック・キューサー・ドラゴン！」

エクセリア自身が宿す《宙準星の竜》が、神の|概念設計図《アイデア》によりて顕現した。

コズミック・キューサー・ドラゴンが放った光の楔が、光の神の停滞の権能を纏って龍姫公を貫く。

動けなくなった龍姫公に、エクセリアは近づく。

エクセリア

「《闇喰らいのミディール》の力、貰い受ける」

炎を纏った左腕を、龍姫公の胸元に差し出す。悍ましい緋を纏ったエーテルが、エクセリアの胸元に吸い込まれていく。

やがて悍ましい緋が収まると、手を遠ざけ、目を閉じその力を昇華させる。

(※GMメモ：RP待機)

龍姫公は、地面に伏した。意識はないようだが、息はあるようだ。

エクセリア

「…間違いない。これは、闇喰らいのミディールの力だ。

帰ろう、私達の隠れ家へ。彼女については、暫く牢に入れて様子を見る。これまでのような覇気は、感じられないからな」

(※GMメモ：RP待機)

そう言って、エクセリアは君達を伴って帰還することになる。

…ちなみに、龍姫公は顕現を解除したセレネが背負っていった。

報酬

経験点・資金・名誉点

このシナリオに当該報酬はありません。

成長回数

・基本：7回

現れた奴隷騎士

数日後。

大広間で休憩をしている君達は、部屋の隅で蹲る赤ずきんの老人を見つける。

(※GMメモ：RP待機)

赤ずきんの老人

「…ああ、女神よ。居場所なき忌みものたちの母よ。

我らの覚悟を、どうか見守りたまえ。アリアンデルに火を、アリアンデルに火を…。

火を熾す灰を…」

何かを唱えながら、何かに祈りを捧げているようだ。

君達は、彼に声をかける必要がある。

(※GMメモ：RP待機)

赤ずきんの老人

「…ああ、あんた…。…いや、あんたじゃない、あんたの知人を呼んではくれないか？あの女と同じ匂いのする女だ…」

困りながら、君達に何かを頼み込む。

…新たな、ちょっとした冒険譚が始まろうとしていた。